

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成20年 2月19日

【評価実施概要】

事業所番号	0770102481		
法人名	メディカル・ケア・サービス東北株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム福島宮代		
所在地	〒960-0116 福島県福島市宮代乳児池131 (電話) 024-552-1335		
評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20 みんゆうビル302号室		
訪問調査日	平成20年1月10日	評価確定日	平成20年3月3日

【情報提供票より】 (平成19年12月7日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成18年3月3日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤16人, 非常勤1人, 常勤換算16.75人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋	造り
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	75,250 円	その他の経費(月額)	水道光熱費10,000円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(80,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	825 円		

(4) 利用者の概要

利用者人数	18名	男性	5名	女性	13名
要介護1	0名	要介護2	7名		
要介護3	8名	要介護4	3名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 82.7歳	最低	74歳	最高	97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療生協わたり病院、医療法人慈正会やまおクリニック、五十嵐歯科医院
---------	-----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人のバックアップ体制を活用しながら、積極的にグループホームを運営している。利用者の皆さんの表情も明るく、満足して生活されていることがうかがわれた。スタッフも互いに信頼し合って、日々の業務を遂行している。住宅街の中にあるホームで、今後さらに様々な地域との交流が深まっていくことが期待できる。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回指摘された介護計画の見直しに関してはモニタリング様式の改善等に職員全員で取り組み、職員の研修に関しては、積極的に研修の機会を提供すると共に、資格取得研修の参加にも配慮している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	日々の実践の中で職員全員が自己評価に取り組み、評価結果も共有できていた。また、今回の結果に関してもあるがまを見てもらい、改善すべきところは取り組みたいという姿勢がうかがえた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5)
	ホームでの取り組みや、行事の案内を伝え、また地域の方々との意見交換などを積極的に行っている。ホームで開催する行事に地域の方の参加を呼びかける手段を議論したり、ホームの敷地内の畑の活用については、ホームの中だけでは対応できないので、推進会議に相談し近隣の方から協力を得ている。会議の開催時期についても参加者の都合に合わせて、より多くの委員が参加できるよう、配慮している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の面会が多いこともあり、その都度意見を聴取したり情報交換を行っている。そこで得たことは、会議等にて検討し、対応している。また、家族に対してのアンケートは直接本部へ提出するようになっているので、スタッフには言いにくい点も、容易に把握でき、運営に活かす努力をしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近くにある大学や、附属幼稚園との交流や、地域の行事への参加を積極的に行っている。また、ホーム内の行事へ、地域の方へ参加してもらい取り組みをしている。また、家族だけでなく利用者の友人が尋ねてきたり、犬の散歩のついでに立ち寄られる方など新しい交流もできてきた。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の共通の理念の中に地域密着型サービスとしての役割をうたっており、また、事業所としては日々の活動の中で実践に取り組んでいる。さらに独自に職員全員で話し合い、ユニットごとの新たな理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員が理念の共有化に努めており、自分たちの作成した理念を日々のケアの中に即して、説明できた。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域とのつながりをとても大切に考えており、町内会に加入し、地域の行事には積極的に参加している。また、近隣の大学や幼稚園との交流があり、ホームの行事にも地域の方々に参加していただくなど地域との交流の機会が増えてきている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は介護サービスの質の向上の基本であるとの認識から、職員全員で日々のサービスを振り返りながら課題を明らかにし、評価に取り組んできた。この評価結果を踏まえ、今後のサービスに活かしていくことにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回のペースで運営推進会議を開催しており、ホームの活動や地域活動に反映させ充実させてきている。具体例として、事業所内の畑を一部地域の方に開放し、本格的に野菜づくりをしていくことになっている。		
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月請求書送付の際に金銭管理等の報告とともに、ホームだより（毎月発行）で利用者の様子を報告している。また家族の面会時を利用して直接、積極的に情報の共有に努めている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族へのアンケート調査を行い、直接言えない意向の把握にも努めている。また、職員は家族の面会時には気軽に何でも話せるような雰囲気作りに努め、そこで出されたことは会議等で話し合い、運営に活かす取り組みを積極的に行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の意見や不満に耳を傾け離職することを防いでいる。やむを得ず退職等があつて新しい職員が入った際は、利用者の信任の厚い職員とずっと一緒に勤務することを繰り返し、挨拶するとともに、馴染みになっていけるような配慮をしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	様々な機関で開催する各種研修会に職員の経験年数や職責等に応じて参加している。また、職員の資格取得に対して支援しており、資格取得した場合には待遇に反映させている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の研修会等に順番に出席し、積極的に情報交換をしている。また、職員の個人的な繋がりも利用して、お互いのホームを訪問し合ったり、意見交換をするなど交流している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)	/		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者がしめ縄作りを職員に教えたり、1年がかりで折り紙の大作を作り上げるなど、共に生活することを大切に支援をしている。また利用者の意向をふまえて共用スペースに集って共に過ごすなどの働きかけを実践している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の話を十分聞くと共に、自分の意思を伝えることができない利用者に対してはそのしぐさをまねることをとおして理解しようと努めている。また、家族の方から趣味や生活状況などの聴取を行い、ケアプランに取り入れている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を積極的に取り入れ、職員が丸となって介護計画の作成と実施に取り組んでいる。家族からの意見や情報を活用したり、職員間で日々の観察や気づきを大切に全員がモニタリング総括票に記入するなどして、計画を作成しているが、内容の表現に工夫が必要と思われる。	○	更なる介護計画の効果を上げるために、プラン内容の表現をより具体的にしてはどうか。それによりモニタリングをしやすくすると共に、現状とプランの効果との関連を捉えやすくなると思う。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画に対しても週ごとにモニタリングし、その結果を3ヶ月にまとめるなど工夫ができています。また大きなプラン変更まではいかない日常の変化に関しても、ケア日報の記載と口頭申し送りにて情報共有し、とぎれないケア実践ができています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている (小規模多機能居宅介護)	/		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の中には往診してもらっている方もいる。また、かかりつけ医への通院には原則家族送迎としており、その際には看護師が医療情報書を作成し持参してもらっている。家族から受診時の情報を尋ねると共に、書面にも指示がもらえる工夫をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の重度化と終末期の方針を定め、入居時に家族等に話しており、随時医師と連携し家族の意志を確認しながら支援している。また、家族から同意書を得ている。具体的には個々により対応が異なってくると考えており、個別に検討するとのことであった。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーに配慮した対応の徹底を図っており、パソコンの情報はパスワードで管理している。また、個人情報の使用目的等の同意書や写真使用の同意書を得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調や思いに配慮しながら支援し、朝寝坊や晩酌等も柔軟に対応している。食事、買い物、外出等利用者の希望を取り入れ支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者はそれぞれ自分のできること（調理、配膳、後片付け等）を自然に行っており、職員も利用者も一緒に食事を楽しんでいる。また、お好みメニューの日を1ヶ月に2度設け、利用者が献立づくりから買い物まで行い、共に楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者のその日の希望を聞きながら入浴を支援している。入浴拒否の場合も声かけのタイミング等に配慮し、状況に応じて対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている（認知症対応型共同生活介護）	利用者の力量に応じて、料理や農作業等を職員と一緒にいき、張りのある日々を過ごせるよう支援している。いままで料理をしたことがない男性利用者にも働きかけて参加してもらうなど、新たなことへの挑戦の支援もしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している（認知症対応型共同生活介護）	元旦には近所の神社へ初詣に出かけるなど、散歩や買い物は利用者の体調や気候に応じて支援している。また、お花見、山王祭、白鳥見学等あらゆる機会を作り、外出している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中はホームの玄関は施錠していない。ユニットごとに職員がさりげなく見守り、外出の気配を察知し、一緒についていくなど安全に配慮した自由な暮らしを支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年2回実施している。また、毎回テーマをもって避難訓練をしている。今後は災害時に地域住民からも協力を得られるよう働きかけが必要と思われる。災害時の食糧品、飲料水の備蓄はされている。		備蓄品は避難訓練時に利用者に提供し、取り扱いや味になれると共に消費期限の確認ができると良いと思われる。また、今後は火災以外の災害や、夜間帯を想定した訓練にも取り組まれてはどうか。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士が作成したものを利用し、職員は利用者の食事量や水分の摂取量をきちんと記録し把握している。今は食事制限の利用者はいないが、体重の増加傾向のある方に対してこんにやくを多用して満足感と摂取量の減に取り組んでいる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広く、利用者が自由にくつろげるようテーブルや椅子が配置されている。季節によりこたつも設置され、利用者が思い思いの場所で居心地よく過ごしている。日中はほとんどの利用者が共用空間に集まり過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は清潔で明るく、利用者が家で使用していた物（テレビ、テーブル、椅子等）を持ち込み、それぞれ個性的な居室となっている。		

※  は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 愛の家グループホーム福島宮代

記入担当者名 長沢 均

評価結果に対する事業所の意見

特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。